



支部便り

No. 30

2012年4月1日発行

編集・発行 公益財団法人 AFS 日本協会岩手支部
 支部長 松田 文平
 事務局 〒028-3601
 岩手県紫波郡矢巾町高田13-29-1
 TEL/FAX 019-673-6607
 メール: info-iwate@afs.or.jp
 http://www2.afs.or.jp/tohoku/morioka/
 印刷 (有)九戸印刷 (久慈市)

AFS いわて

岩手から世界へ——みちのく応援奨学生5名が留学——

「みちのく応援奨学金」に応募していた県内の高校生5名が、みごとAFS派遣選考と奨学生に合格、年間留学生として世界に羽ばたく。被災県限定のこの奨学金は、1年間の留学費用のほぼ全額を支援するもので、今年のAFS派遣選考でも継続される。高校生留学を希望する県内の中高生にとって、海外留学実現の大きな後押しとなる。岩手支部では、4、5月に二回の留学説明会を開催、海外留学を希望する中高生に正しい留学情報を提供する予定である。

震災の影響で半年に短縮された2名の受入生は、ホストファミリーや同級生の見送りを受け、2月初め第二の故郷、岩手を後に帰国した。12月には東アジア8カ国からの高校生と陸前高田市を訪問、津波の凄まじさを目の当りにし、被災者

の話に共に涙した。どの国の高校生も同じ感情を共有していることを実感した。前後し東京で開催されたジェネシス・フェスティバルには、県内から60名余りの高校生と引率者が被災地招待され、世界中の高校生とつながり、世界が身近にあることを体験した。

AFS岩手支部が直面する困難は、高校留学生のホストファミリー探しである。留学生を受け入れ、家庭で異文化を体験する。ホストファミリー体験とは、留学生と生活を共にすることにより異文化との細い糸を太いきずなにて育て上げる体験である。県内の多くの家庭にその機会を提供したいと願っている。「百聞は一見に如かず」我が家の玄関を開いて、留学生を迎えてほしい。

● AFS年間派遣プログラム(第59期)派遣生 ●

藤井 理子 (AFSみちのく応援奨学生)	盛岡第一	マレーシア 派遣
箱崎 朱夏 (AFSみちのく応援奨学生)	不来方	イタリア 派遣
三浦 永太郎 (JSみちのく応援奨学生)	盛岡中央	アメリカ 派遣
北村 茉莉愛 (JSみちのく応援奨学生)	盛岡第一	アメリカ 派遣
中村 駿介 (JSみちのく応援奨学生)	不来方	アメリカ 派遣
大川 裕	八戸ウルスラ	アメリカ 派遣

* JS: ジャパン・ソサエティー

～ 第60期派遣・みちのく応援奨学生募集 ～

ラ・ノック・マイ

(盛岡第二高校・ベトナム)

日本で留學生活、ずっと永遠に忘れない!

こんにちは!私はマイです。八月にベトナムから盛岡に来ました。六ヶ月間は速く過ぎました。今までの時間は、私の人生で一番特別で一番重要な時間でした。沢山経験しましたし、沢山人に会いましてし、沢山のことを勉強しました。

最初盛岡へ来たときに、全てが新しくて不思議でした。歩道で自転車があるし、町を行くと音があるし、日本の伝統的な店がいっぱいあるし、バスで降りる時の押しボタンあるし、駅の中でたくさん物が売られるし、私の都市と比較してとても違います。

ホストファーザーはとても面白くてフレンドリーな人だと思いました。毎週岩手県の美しい場所に連れて行ってくれました。例えば、中尊寺、盛岡城跡公園、県立博物館、花巻、平泉など他にもたくさんの場所に行きました。岩手県は光景がとてもきれいと思います。日本の料理も一緒に食べました。私はお父さんにたくさん日本の文化を教えてくださいました。ホストマザーはとても親切でいつも娘のように私のことを心配してくれます。

ほとんど時間は学校ですぎましたから、盛岡第二でいっぱい思い出があります。私の日本語が上手じゃないですから、毎日毎日、皆が何を話しているか全然分かりませんでした。最初は学校に行ったときに、みんな私をエイリアンのように見ていました。言葉の壁のため、皆としたしくなれなかった。時々とても寂しかったです。でも、まわりの人達が沢山世話をしてくれました。私も頑張った。だんだん楽しくなりました。先生はとても優しいです。部活にも沢山参加しました。そのうちソフトボールと薙刀が大好きです。毎日、一緒に練習しました。強くなりました。学校でベトナムについてプレゼンテーションしました。みんなのメッセージを読みました。みんながベトナムに興味をもってくれて、とても幸せでした。

修学旅行はとても楽しかった。京都、奈良、広島に行きました。沢山日本の有名なところを見学しました。日本の文化も勉強しました。友達と遊びました。その時も、大よくじょうに入りました。初日は恥ずかしかったけど二日目から日本のお風呂が大好きになりました。みんなで一緒にお風呂に入ったり、同じ部屋で寝たりすることが家族みたいだと思いました。

A F Sの活動に参加しました。仙台の国際お祭り、支部バザー、短期留学生との一週間、スキー、とても楽しかったです。大船渡でボランティア参加しま

周童

(不来方高校・中国)

日本へ留学する。

—— 日本での体験レポート

周童



AFS 周童

時間がたつのは本当に速かったです。もう「さよう来てしまいました。

ホームステイ式の生活は当然に難しかったです。五ヶ不愉快な事もあるけれども、つまりいい経験だと思って

私は中国でいっぱい日本のアニメを見ました。あの時学校の生活について、たくさん興味を持っていました。ずい、本当に日本の生活を体験したいと思っていました。

まず、私のホストスクールの話をしたいです。

私の学校は不来方高等学校です。不来方学校はです。学校での生活は一番楽しかったです。漫画でよく出ました。私は見るだけでもとてもおもしろかったです。私は面を体験しました、本当に満足しました。

学校でたくさん今まで経験したことない事をしました。フランス語、陶芸など。すごくおもしろかったです。

最初に日本語でフランス語を勉強し始めたのがとても難は、いっぱい興味を持っていたし、先生もとても親切

した。そこで、本当のことを見ました。避難所の人と話しました、3月の大地震のことをもっと深く分かりました。私にとってとても貴重と思います。

実は、日本に来る前に日本のことをあまり知りませんでした。日本に行きたい本当の理由は、一年間いっぱい遊ぶ、勉強なし、でした。でも、今、時間がちょっと短いけど沢山のことができました、本当に幸せです。日本は私の第二の母国です。ここで私の第二都市がある、第二家族がいる、第二高校がある、優しい先生がいる、いっぱい可愛い友達がいる、いっぱい忘れられない記憶がある。

この留学が終わっても、日本の人たちや生活のしかたは私に大きなえいきょうをあたえるでしょう。そして私は、もっと強く、もっと素敵な人間になるでしょう。

A F S岩手、ホストファミリー、盛岡第二高校に心から感謝します。私はこの経験を永遠に忘れられない。また、日本語勉強を頑張ります。そして、将来、また日本に盛岡に戻って来ます。



なら」と言う時間が

月間ぞ、楽しい事と
います。

から、日本の文化や、
と日本へ行ってみた

とても素晴らしい学校
る文化祭に参加しま
日本のアニメと同じ場

。例えば、ソフトテニス、

良かったです。でも、私
なので、一生懸命

勉強しました。今までにたくさん上手になっています(笑)

陶芸は私は一番好きな授業です。今週、私は自分で作った作品三つを焼いて出来ました。とても自慢したかったです。全部持って帰って、父親と母親にあげたいです(笑)

五ヶ月間の時間はすごく短かったけれども、学校でたくさん友達を作りました。とても楽しかったです。

ホストファミリーもとても親切です。ホストペアレントと一緒に正月の食べ物を買ったり、温泉へ行ったり、玩具屋さんへ行ったり、拉面を食べたり、とても楽しかったです。

お正月は家族と一緒に餃子を作りました、すごく豊富なご飯を食べました。家族の皆と一緒に食べる時、ホームシックが出たけど、特別な経験だと思いました。

今回、AFSerになって、日本へ来ました。いろいろな日本の伝統のお祭りとか、おもしろい活動とか 参加しました。また世界中のAFSerと友達になりました、とても楽しかったです。

最後、得難い機会を提供してくれたAFSありがとうございます。

素晴らしい留学環境を提供してくれたホストファミリーありがとうございます。私が自分の家族の一員を見たいのホストファミリーありがとうございます。

たくさん人は私に助けてくれたことあります。だから ここで、心からの「感謝」を言いたいです。

ありがとうございました。

体験は

日本での五ヶ月間は短かったけど、私にとって今回の素晴らしい思い出としてずっと記憶に残ると思います！



2012.1.27

第50期派遣生より

ブラジルに留学して

上智大学大学院 経済学研究科経済学専攻
博士前期課程 坐間 昇

私はバレーボールをしたくてブラジルに留学しました。しかし、ブラジルで貧富の格差や貧困問題を目の当たりにし、そちらのほうに関心を持って帰ってきました。留学をしたことで、日本にいては考えることがなかったであろうことを考える機会を与えていただきました。きっかけは何であれ、留学より得られるものは必ずあります。是非多くの岩手の若者にAFS留学を体験してもらいたいと思います。

御 礼

このたび、元AFS留学生(第9期)であったY様から、支部に多額のご寄付をいただきました。

被災地奨学金で留学する生徒に対し、留学準備のための支援金として贈呈しました。ここに心から感謝の意を表します。

留学への決意

三 浦 永太郎（盛岡中央高校2年・アメリカ）

2011年3月11日の東日本大震災から、もうすぐ1年が過ぎようとしています。

震災を受けて発足したみちのく応援奨学金の試験に、私は幸運にも合格し「留学」というすばらしい舞台への切符を手に入れました。私が試験を受けたとき、海外への憧れや興味はあったものの「留学してこうなりたい！」「現地に行ったらこんなことをしたい！」といった明確な目標はまだ定まっていませんでした。しかし、試験合格後のオリエンテーションや支部活動でAFS留学をするという自分と同じ道を選んだ仲間、そして留学を無事に終えて私たちの活動を支えてくださる先輩方と出会い、交流することによって留学に対する想いが自分の中でとても大きなものになっていきました。

また、留学を終えた先輩方からのアドバイスで自分が留学する上で意識しなければならないことに気

づかされました。それは「ただ学び、受け取る」だけではなく「自ら伝え、発信」することの大切さです。私は初め、たくさんの文化や風習を学び、楽しむことが留学なのだと思っていました。これらは間違っていないと思います。ですがそれでは足りないことに気づいたのです。

私が派遣されるアメリカ合衆国は日本人の私から見れば異文化で、学ぶ要素が数えきれないほどたくさんあります。逆に言えばアメリカの人々から見れば私が異文化で、私が留学することによって現地の人々も私を通じて日本という素晴らしい国に親しんでもらえる絶好の機会になります。

私は、いま以上に日本に関する知識を深め、しっかりと伝えられるように準備をして留学に臨みたいと思います。苦しいことや辛いことも自分の成長のため挑戦していきたいと思います。

サポートしてくださる皆様への感謝を忘れず、そして自らの大きな期待や希望を胸に私はアメリカに飛び立ちます。

アメリカ合衆国に留学する

北 村 茉莉愛（盛岡第一高校2年・アメリカ）

私にとってこの留学の話は、天から降ってきた幸運としか言いようがありません。

今回の震災で、生活は大幅に急変し、絶望の中で毎日過ごしていた矢先に奨学金のお話がありました。奨学生に決まることができとても光栄に思っております。

この機会をただの留学にせず今後につなげるのできるよう、頑張ります。

私の抱負は、社会を広く言わばグローバルに見ることです。私の夢は、外交官です。この夢を叶えるため、アメリカ合衆国では常に自分をシビアな環境におきます。そして、一期一会という言葉が日本にあるように人との出会いを大切にしたいです。

昨日行われた、セメスター生2人の送別会でも友達の大切さを改めて思いました。2人は、私の親友です。

今度は私が友達をつくる番です！

まだ、派遣先は決まっていけど、どこに決まってもこの10ヶ月を充実させ、辛いことも苦しいことも幸せに変えることのできるような留学にしたいです。

AFS岩手支部の皆様、私の成長を見ていて下さい。

最後に素晴らしい機会を与えていただいた支部の皆様、ありがとうございます。



留学の抱負

箱 崎 朱 夏（不来方高校2年・イタリア）

私が留学を通してしたいことは、まずイタリア人になるくらいイタリアにどっぷりつかって帰ってきたいです。1年間という期間を有効に使いたいです。

次に、今回起こった「東日本大震災」を被災地の1人としてイタリアでしっかり発信してきます。私は今回の震災で学んだこと、気づかされたことがあったのでそれをきちんと伝えたいです。

もうひとつは、いろんな人と出会い、自分の視野を広げたいです。

最後に自分の夢も見つけられたらいいなと思っています。そのために、日本にいる間、英語は英検2級を絶対取得して、苦手なリスニングを克服し、日本の文化を勉強します。9月出発だからと、気を緩ませないようにしたいです。

マレーシアへ留学

藤 井 理 子（盛岡第一高校2年・マレーシア）

去年、マレーシア派遣が決まってからあっという間に時間が経ち、1月に出発となりました。最初は、自分が留学する事に実感が湧きませんでした。しかし、2回のオリエンテーションや支部活動に参加する中で多くの方々に感化され、次第に留学を深く考えるようになりました。私は、多国籍文化を持つマレーシアで、どのように人々が共存しているのか身を持って体験してきたいと思います。また、みちのく奨学生として被災地の現状をしっかりと伝えてきたいと思います。今まで私の留学をサポートして下さった全ての方に感謝し頑張ってきます。行ってきます！

フォトスナップ



ジェネシス歓迎会



セメスター送別会



平泉訪問



日本語スピーチコンテスト



支部ぶどう狩り



ジェネシス短期受入



■2013年派遣(第60期)生 中学生・高校生募集

高校時代の留学は、異文化の中に置かれた自分を見つめて、「新しい自分を発見する旅」です。
皆さんも世界と自分を知るために応募してみませんか？

一般選考 A・B 日程

A 日程 募集期間：4月2日(月)～6月5日(火)
試験日：6月17日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ予定)

B 日程 募集期間：4月2日(月)～7月10日(火)
試験日：7月22日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ予定)

試験内容：英語筆記試験(90分)、一般教養(30分)、日本語面接(15分程度)
※英語試験はSLEEPテストです。

選考手数料：18,000円(岩手県など被災地は手数料免除です)

(詳細はホームページで確認のこと)

ホストファミリー募集

AFS留学生を家庭に迎えてください。応募条件はただ一つ。「単身でないご家庭」。外国語ができなくても構いません。日本語で話しかけるだけで受け入れができます。

年間受入生(10.5ヶ月)

秋受入：2012年8月下旬～2013年7月中旬

セメスター受入生(5.5ヶ月)

秋受入：2012年8月下旬～2013年2月上旬

短期受入生(1ヶ月程度)

秋受入：2012年9月～2013年1月

詳しくはAFSのホームページで。
<http://www.afs.or.jp/>

岩手支部

AFS留学説明会 (みちのく応援奨学金の説明含む)

第1回 4月15日(日) 午後1時
場所：アイーナ6F 団体活動室3

第2回 5月13日(日) 午後1時
場所：アイーナ6F 団体活動室3

※両日とも、説明会后、希望者にSLEEPテストを実施します。

会費等の納入ありがとうございました。

昨年度も皆様からAFS岩手支部にご支援を頂き、誠にありがとうございました。会費、ご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただき、ご協力に心から感謝申し上げます。

照井 保之	池田 晃	菅野 公男	日向 義孝	山口 碧	佐藤れえ子	鈴木 実友
堀 憲一	日影 倫久	伊藤 勝昭	伊藤さや子	平井 博夫	山形 士郎	村中あけみ
大坊 一男	大木 謙嗣	村上 晶子	工藤 重信	盛島 寛	井上 義博	工藤 弘幸
新屋 委子	箱崎 朋子	佐藤真由美	松田 文平	米沢 俊一	井上千恵子	濱田 洋子
川村 俊幸	佐藤 賢吉	横山 ユウ	九戸 印刷	J A全農いわて		(敬称略・順不同)

会費のお願い 今年度も支部会費のご協力をお願いします。

支部会費：年3,000円(支部会員)

支部会員(支部員、派遣生保護者、リタニー及び保護者、支部活動に協賛する個人又は団体)

■ご寄付のお願い■ AFSは国際理解教育を推進しています。10代の高校生をはじめとしたより多くの人々に、異なる文化と接する機会を提供できるよう、AFSの活動にご支援を賜りたくよろしくお願い致します。

【ご寄付の方法】(公財)AFS日本協会(支部を含む)への寄付はいくらからでもしていただけます。
※詳しくはAFSのホームページをご覧ください。

「みちのく応援奨学金」の奨学生募集

みちのく応援奨学金	ジャパン・リサエティーみちのく応援奨学金	JFAMみちのく応援奨学金
【対象者】 世界約40カ国に留学希望の高校生(3名程度)	【対象者】 アメリカに留学希望の高校生(10名)	【対象者】 世界約40カ国に留学希望の高校生(1名)
【留学期間】 2013年の約10カ月間のホームステイ及び高校通学 【支給額】 AFS年間派遣プログラム参加費+諸雑費の合計150万円 【応募条件】 震災時、青森県・岩手県・宮城県・福島県の全域に居住または在学していた生徒で中学3年生～高校2年生 【応募締切】 2012年7月10日(火)(当日消印有効) ※奨学金申し込みには、「AFS年間派遣第60期選考A・B日程への応募・受験が必要。		